

○計画期間：平成28年4月～令和3年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成 30 年度終了時点（平成 31 年 3 月 31 日時点）の中心市街地の概況

本市では、平成 28 年 3 月に「福知山市中心市街地活性化基本計画」の認定を受け、継続した中心市街地の活性化事業に取り組んでいる。

集客拠点の一つである駅周辺においては、駅正面リニューアル事業を特定会社である福知山フロント株式会社が牽引し、国や市の支援事業を活用して 4 店舗の開業をみた。これまでの 3 年間で 7 店舗が開業したほか、事業実施による活性化機運の高まりから 2 店舗の自主出店にも繋がり、新たな人の流れを生み出している。また、長らく駐車場利用されていた低未利用地で民間によるマンション建設が計画されるなど、着実に賑わい創出に向けた取組が進んでいる。

福知山城周辺においては、ゆらのガーデンで平成 30 年 7 月に豪雨災害で 5 店舗が浸水被害にあい休業を余儀なくされたが、9 月には全店舗が営業再開され、年間来場者数も前年比 27% 増加という実績であった。また、11 月には福知山城で将棋の竜王戦が開催され、本市の魅力発信と知名度向上の機会を得た。さらには福知山城を築城した明智光秀を主人公とした NHK 大河ドラマの放送決定もあり、中心市街地はもとより、本市全体の集客拠点としてその波及効果が期待される。

広小路周辺においては、広小路商店街でテナントミックス 2 店舗が営業再開したほか、大規模歴史建築活用事業の実施に向けて具体的な事業計画が立てられた。新町商店街では、福知山公立大学や民間組織による空き物件を活用した集客・交流スペースが設置され、地域に交流が生まれ活性化に繋がる取組が進められている。これらに加えて、広小路通りでの電線類地中化・美装化工事が令和元年内の完了を予定しており、景観の向上とあわせて更なる賑わいと活気が見込まれる。

これらの集客拠点への誘客とあわせて、まちなか回遊へ繋げるため、中心市街地を面的に発信する取組を進めるとともに、人口や既存店の減少抑制に向けての取組みなど、官民一体となって中心市街地の活性化を推進している状況である。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(基準日：毎年度 1 月 1 日)

(中心市街地 区域)	平成 27 年度 (計画前年度)	平成 28 年度 (1 年目)	平成 29 年度 (2 年目)	平成 30 年度 (3 年目)	令和元年度 (4 年目)	令和 2 年度 (5 年目)
人口	5,502	5,434	5,379	5,267		
人口増減数	△67	△68	△55	△112		
自然増減数	△38	△43	△55	△68		
社会増減数	△29	△25	0	△44		
転入者数	128	153	161	163		

2. 平成 30 年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

中心市街地活性化協議会では、福知山市と共に、平成 30 年度に 8 回の定例会、1 回の全体会議を開催し、情報共有と意見交換、そして関係者の連携や協力を促して、基本計画の実施に向けて取り組んできた。

当協議会では、活性化まちづくりの目標である「歴史と文化が育んだ 豊かな暮らしと賑わい交流のまち」即ち「新城下町」をめざし、努める中で、街なみ整備、空き店舗活用、まちなか居住等が進む方向性が強まっており、これまでの成果をより多くの人に活用され、生かす努力を強めるとともに、計画に基づく城周辺、広小路、駅正面の各拠点とそれらをつなぐ継続事業の着実な推進や、令和元年度以降の主要事業への着手、実行の動きもあり、基本計画は一部状況の変化によるものの他、順調に進捗するものと考えている。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
まちなか観光による人々が集う賑わいあるまち	歩行者・自転車通行量 (平日・休日の平均)	3,871 人/日 (H27)	4,200 人/日 (R2)	3,330 人/日 (H30)	C	①	①
「人・もの・情報」が集まり、誰もが快適に暮らせるまち	歴史文化・交流施設利用者数	356,104 人/年 (H26)	390,000 人/年 (R2)	386,774 人/年 (H30)	B	①	①
生活の質を高め、「しごと」の場がある活力あるまち	新規店舗開業数	10 店舗 (H23～H27)	20 店舗 (H28～R2)	13 店舗 (H28～H30)	B	①	①

< 基準値からの改善状況 >

A : 目標達成、B : 基準値達成、C : 基準値未達成

< 取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類 >

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「歩行者・自転車通行量」については、順調な増加をみせた昨年度から大きく後退し基準値を下回ったが、これは調査時点の気象条件や広小路通りの道路改良工事実施等が影響したものと考えられる。今後、主要事業の順調な進捗とあわせて、「まちなかフェスティバル」を始めとした誘客・回遊性を促すソフト事業の実施、駅周辺エリアで計画されている民間によるマンション建設、大河ドラマ放送を契機としたリピーターの獲得等により、集客拠点及びその動線上の通行量の増加を見込んでおり、目標達成は可能と見込まれる。

「歴史文化・交流施設利用者数」については、市民交流プラザふくちやま、ハピネスふくちやまが市民の生涯学習や講座、コミュニティの場として定着してきたことから目標値に近い実績となった。その他の施設についても、大河ドラマ放送決定を受けて増加が見込まれる利用者に再訪を促す魅力的なアプローチを行うことで利用者数の増加を見込んでおり、目標達成は可能だと見込まれる。

「新規店舗開業数」については、年間目標 4 店舗を上回る実績となった。支援事業への相談が増加していることとあわせて、民間の実行委員会により平成 31 年 4 月にオープンチャレンジショップも新規開業の新たな支援として期待され、目標達成は可能と見込まれる。

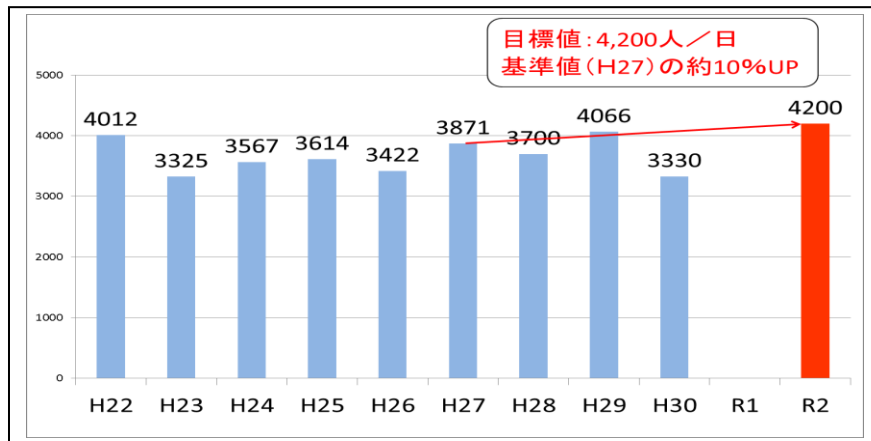
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回から変更はない。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

「歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 83～P. 87 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H27	3,871 (基準年値)
H28	3,700
H29	4,066
H30	3,330
R1	
R2	4,200 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行量調査（中心市街地7地点で実施）

※調査月：平成30年9月実施（平日と休日の2回）

※調査主体：福知山市

※調査対象：歩行者・自転車通行者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 大規模歴史建築活用事業（民間）

事業実施期間	平成28年度から令和元年度【実施中】
事業概要	中心市街地内の大規模歴史建築を活用し、福知山の風土を五感で味わうことができる宿泊・飲食施設にリノベーションする
国の支援措置名及び支援期間	認定基本計画：地域まちなか活性化・魅力創出支援事業費補助金（中心市街地活性化支援事業）のうち先導的・実証的事业（経済産業省）（令和元年度）
事業効果及び進捗状況	歴史的に価値のある該当物件2棟を民間が購入し、有形文化財登録を行ったうえで飲食・宿泊施設として活用するための計画を進めている。福知山城を築城した明智光秀を主人公とした大河ドラマ放送（R2年）に併せてのオープンを予定しており、オープン後は施設利用者がまちなか回遊するようになり、一日38人程度の通行量の増加に繋がると見込んでいる。
事業の今後について	令和元年度内のオープンを目指して、補助金を活用して施設整備を行う。整備後に国の有形文化財登録を申請して、エリアとしての魅力や価値の向上に繋げ、さらなる集客を図る。

②. 駅正面リニューアル事業（福知山市、駅正面通り商店街振興組合、福知山フロント

株式会社)

事業実施期間	平成 28 年度から令和 2 年度【実施中】
事業概要	福知山駅正面に位置する駅正面通り商店街をまちづくりのコンセプトを策定し、空き家を活用してテナントミックス事業を行う
国の支援措置名及び支援期間	地域・まちなか商業活性化支援事業費補助金（中心市街地再興戦略事業）のうち先導的・実証的事業（経済産業省）（平成 30 年度） 地方創生推進交付金（内閣府）（平成 28 年度から平成 30 年度） 地域まちなか活性化・魅力創出支援事業費補助金（中心市街地活性化支援事業）のうち先導的・実証的事業（経済産業省）（令和元年度から令和 2 年度）
事業効果及び進捗状況	福知山フロント株式会社により空き店舗活用が積極的に推進されており、平成 31 年 1 月～3 月の間に 4 店舗が新たに開業し、自主出店も含めると 3 年間で 9 店舗が開業している。また、駅正面エリアで 3 日間の夜間イベントを実施する中で、事業を広く発信し、期待値を高めた。近隣調査地点の通行量は平成 29 年度より減少したものの基準値より 179 人多く、町家活用ゲストハウス施設整備事業と合わせた目標値をほぼ達成しており、今後も更なる増加が見込まれる。
事業の今後について	引き続き、空き店舗活用に取り組むとともに、街なみ環境整備事業によるファサード整備に取り組み、駅正面エリアの魅力的な景観を形成し、集客、賑わいの創出を図る。

③. 福知山城周辺都市施設整備構想（福知山市、民間）

事業実施期間	平成 28 年度から令和 2 年度【未】
事業概要	福知山城周辺賑わい創出施設（ゆらのガーデン）に続く第 2 弾プロジェクト。公共施設の再編とあわせて、文化・商業空間として整備する
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	市全体の文化振興の将来像や方向性を定めるため、平成 29 年度より審議を開始し、平成 31 年 3 月に「文化振興基本方針」を策定した。施設の整備については「将来の人口動態、文化活動のニーズ、市の将来像等を考慮し、計画的に整備改修を行う」との方向性を示しており、城周辺の丹波生活衣館の利活用についても検討する予定にしている。事業完了時には 1 日あたり 205 人の通行量の増加を見込んでいる。
事業の今後について	目指す将来像や基本目標、取組の方向性を定めた基本方針を指針として、丹波生活衣館の利活用について検討を進める。

④. 町家活用ゲストハウス施設整備事業（福知山フロント株式会社）

事業実施期間	平成 28 年度【済】
事業概要	中心市街地にある旅館を活用し、ゲストハウスとして改修し交流人口を増やす
国の支援措置名及び支援期間	商店街・まちなかインバウンド促進支援事業（中心市街地活性化事業）（経済産業省）（平成 28 年度）
事業効果及び進捗状況	平成 29 年 3 月に駅正面通り商店街にゲストハウス「ノースフロントホテル」が開設され事業は完了した。稼働率も高く推移しており、平成 30 年度実績では約 9 割となっており、外国人観光客による利用者も平成 29 年度より 2%増加している。近隣調査地点の通行量は平成 29 年度より減少したものの基準値より 179 人多く、駅正面リニューアル事業と併せて、賑わい創出や回遊性の向上に寄与している。
事業の今後について	駅正面リニューアル事業によるテナントミックス事業と、平成 31 年度から駅正面エリアで取り組む街なみ環境整備事業の推進と併せて、効果的な広報活動を行うことでエリアへの誘客を図る。

⑤. まち歩き観光促進事業（福知山市、福知山まちづくり株）

事業実施期間	平成 27 年度から令和 2 年度【実施中】
事業概要	長年の課題となっている駐車場不足を解消し、中心市街地の利用頻度を高める
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 28 年度～令和 2 年度）
事業効果及び進捗状況	平成 29 年度まで福知山パークングの 1 時間無料化に取り組んでいたが、平成 30 年度からは、店舗利用者に 30 分無料券を配布することでまちなか回遊を促進する仕組みとしたが、広小路通りの道路工事の影響もあり、パークング利用台数は平成 29 年度より約 2 割減少した。また、パークング利用台数のうち本事業利用台数は 30～40%であることから、事業の周知を図るとともに店舗等の情報発信を行うことで、来街の動機付けと回遊を促し、事業利用者の増加に繋げ、目標値としている 1 日あたり 26 人の通行量の増加を目指す。
事業の今後について	平成 27 年度から実施している、広小路通りの電線類地中化・道路美装化工事が令和元年中に完了する。完了後の街なみ景観が向上した広小路周辺への誘客と併せて、効果的な事業の周知と情報発信を行うことで活用を促進する。

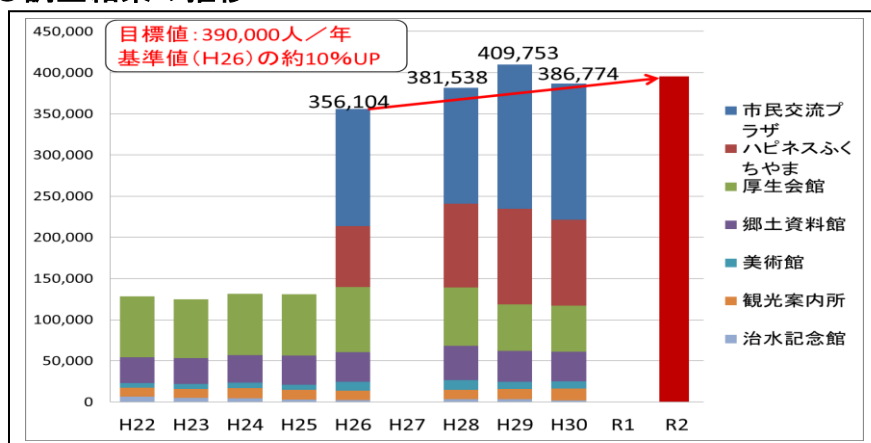
●目標達成の見通し及び今後の対策

通行量調査は 9 月初頭に実施したが、この夏は記録的な高温となり、本市においても前年の 2.6 倍の猛暑日数を記録し、外出を控える雰囲気があったこと、また、今世紀最強とも言われる台風 21 号の上陸前日であったこと、さらに、広小路通りの電線類地中

化・道路美化化工事実施の影響もあり、特に集客拠点においては前年より20～25%の減少となり、基準値を下回った。しかしながら今後は、駅正面リニューアル事業が一層推進され、大規模歴史建築活用事業の進捗が図られることとあわせて、大河ドラマ放送決定による観光客の増加をリピーター獲得の好機として、集客拠点及びその導線上に新たな魅力スポットを創出し、情報発信をする等、まちなか観光の充実を図ることで目標達成は可能であると思われる。

「歴史文化・交流施設利用者数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 88～P. 91 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H26	356,104 (基準年値)
H28	381,538
H29	409,753
H30	386,774
R1	
R2	390,000 (目標値)

※調査方法：歴史文化・交流施設の利用者数調査

※調査月：平成31年2月実施

※調査主体：福知山市

※調査対象：歴史文化・交流施設の利用者数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 厚生会館改修事業（福知山市）

事業実施期間	平成28年度から令和2年度【実施中】
事業概要	本市の文化振興の拠点である厚生会館について、社会環境に即した改修を行なうとともに、機能改善を目指す
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成31年3月に策定した「文化振興基本方針」において、厚生会館の整備については「老朽化している他の施設との効果的な機能集約も図るなかで、文化活動の核となる文化ホールについて、新たな建設も含め検討する」との方向性を示している。事業完了時には3,491人の利用者数の増加を見込んでいる。
事業の今後について	目指す将来像や基本目標、取組の方向性を定めた基本方針を指針として、厚生会館の改修・機能改善について検討を進める。

②. 市民交流プラザふくちやま活用事業（福知山市）

事業実施期間	平成 28 年度から令和 2 年度【実施中】
事業概要	市民交流プラザふくちやまでの講座開設者を充実するための広報活動等を実施し、市民に社会参加の機会や新たな価値との出会いの場を提供する
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成 26 年にオープンした市民交流プラザは、市民の社会参加の機会や新たな価値との出会いの場の提供等を目的として、継続して広報活動を実施している。平成 30 年利用者数は 165,596 人で平成 29 年度を下回ったものの、基準値を 23,074 人、約 16%上回っており、目標達成となった。
事業の今後について	プラザは生涯学習センターとして市民や利用者にとってなくてはならない施設として認知されており、今後も生涯学習、新しい講座の開設や研修会、コミュニティ活動の場として一層の利活用が図られるよう、広報活動の充実を図り、利用者を募る。

③. ハピネスふくちやま活用事業（福知山市）

事業実施期間	平成 28 年度から令和 2 年度【実施中】
事業概要	ハピネスふくちやまでの子育て世代の教室及び健康推進事業、障害者生活支援事業、男女共同参画推進事業等を実施
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成 30 年度から、ハピネス 1 階に子育てに関する施策や窓口を一元化した「子ども政策室」を設置し、利便性の向上と子育て家庭の課題に寄り添った支援を行った。男女共同参画センターにおいても、あらゆる人権問題の解決や男女共同参画社会の推進に向けた講座や研修等が年間 1,634 回開催された。利用者数は 104,073 人で基準値の 74,116 人を大きく上回り、目標値である 6,000 人の利用者増加を達成した。
事業の今後について	目標値は達成しており、今後も順調に推移すると見込まれる。今後も、各種相談窓口や健康教室、人権講座等を開催し、一層の利活用を図る。

④. 佐藤太清記念美術館特別展事業（福知山市）

事業実施期間	平成 28 年度から令和 2 年度【実施中】
事業概要	福知山市佐藤太清記念美術館で特別展を開催し、福知山市民としてのアイデンティティ増幅に寄与する

国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成 29 年度から平成 30 年度）
事業効果及び進捗状況	平成 30 年度は 4 回の特別展・企画展を開催し集客に努めた。特に漫画家で地元在住の「この史代 原画展」は多くの集客があった。しかしながら、年間を通しての興味・関心を引く特別展の開催には至らず、利用者数は基準値 10,644 人に対し 8,654 人であり、2,000 人の利用者増加の目標は達成できなかった。
事業の今後について	ニーズに応じた魅力ある特別展の開催に努めることで、利用者数の増加に繋げる。また、令和 2 年 1 月～12 月の期間は美術館 2 階を「仮称・福知山光秀ミュージアム（ドラマ館）」として活用予定である。

⑤. 駅北口公園賑わい事業（福知山市、民間）

事業実施期間	平成 28 年度から令和 2 年度【実施中】
事業概要	福知山駅北口公園を活用し、賑わいあるイベント等を活用のマネジメントを行う
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	厳寒期以外、月 1 回以上のイベントを開催し、7,840 人の集客があり、目標値 3,600 人を上回った。特に、「海の京都クルージングフェスタ」「ふくちやま MEET×MEAT」では、複数の拠点でイベントを同時開催したことで、多くの人を集客し、周辺地区の賑わいや回遊性の向上に寄与した。
事業の今後について	駅正面通りや広小路周辺、お城周辺のイベントとも連携を深め、集客・回遊に繋げるイベントを実施する。

⑥. 福知山城観光駐車場拡張事業（福知山市、城周辺賑わい創出プロジェクト会議）

事業実施期間	平成 28 年から平成 29 年度【済】
事業概要	福知山城周辺施設の利用促進のため、長年の課題である駐車場不足を解消するため、観光駐車場を拡張する
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成 30 年 3 月に、福知山公園観光駐車場に隣接する「京口荘」を解体・撤去し、新たに 10 台の駐車スペースを確保することができ、駐車台数が 15%の増加となった。郷土資料館入館者数は基準値とほぼ同じ 36,301 人で目標値の 3,628 人の増加は達成できなかった。しかしながら、竜王戦の開催とそれに伴う改修工事のために 9～11 月の期間で 22 日間休館した影響もあったと思われる、一日あたりの入館者数をみると、拡張前は 133 人/日だったのが、拡張後は 142 人/日と 9 人増加しており、効果は大きいと考える。

事業の今後について	福知山城を築城した明智光秀を主人公とした大河ドラマ放送決定もあり、今後も入館者数は増加すると見込まれる。周辺の未利用地も活用して駐車スペースの確保に努め、入館者の増加に繋げる。
-----------	------------------------------------------------------------------------------------------

⑦. 観光情報発信力強化事業（福知山市、商店街）

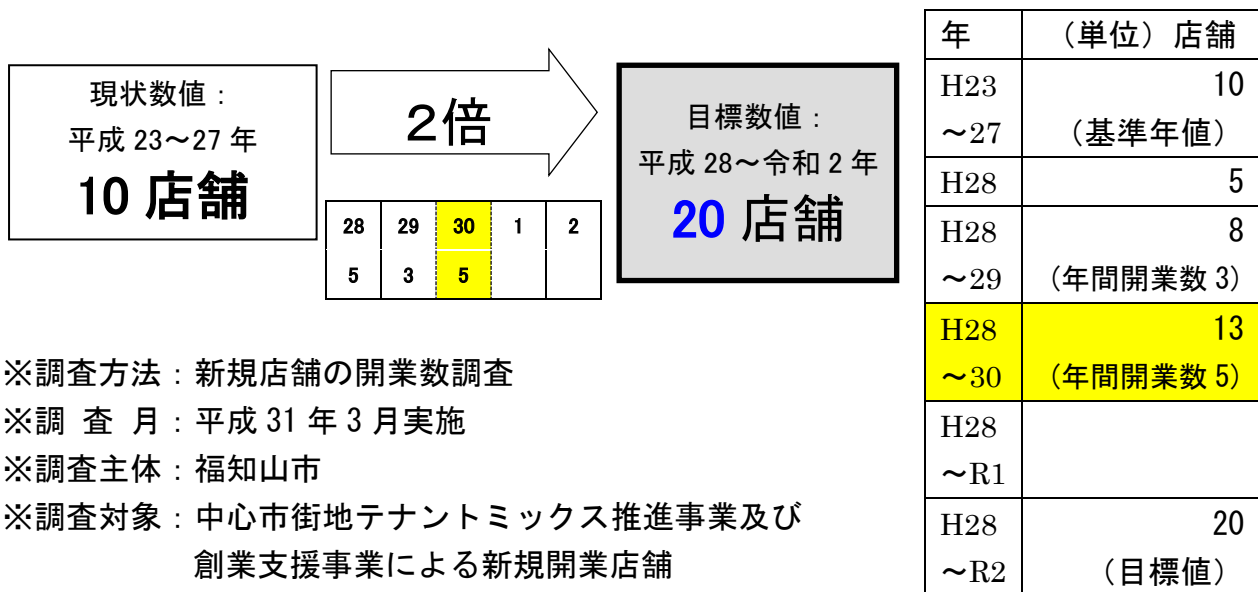
事業実施期間	平成 28 年度から令和 2 年度【未】
事業概要	城下町福知山の観光情報を広域に発信し、利用者増につなげる
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	Wi-Fi スポットの設置にかかる必要経費の負担も含めて、最適なネット環境について検討中である。 目標値：施設利用者 1,000 人増加
事業の今後について	情報入手の利便性を図ることは誘客に有効であるため、今後も継続して設置を検討する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗しているため、目標達成は可能だと思われる。施設によっては基準値より利用者数を下げた施設もあったが、「市民交流プラザふくちやま」「ハピネスふくちやま」がともに、生涯学習や民間の活用拠点として認知され、利活用されていることから目標値に近い実績となった。今後は、大河ドラマの放送決定を受け、郷土資料館を中心に観光客の増加が見込まれることから、各施設において、リピーター獲得の好機として工夫を凝らした事業と周辺活性化施策との連携を図っていくことで、さらに実績を伸ばしていきたい。

「新規店舗開業数」※目標設定の考え方基本計画 P92～P94 参照

●調査結果の推移



●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中心市街地テナントミックス推進事業（福知山市、福知山まちづくり(株)、民間)

事業実施期間	平成 23 年度から令和 2 年度【実施中】
事業概要	中心市街地内における空き家を利用した飲食・物販等のショップ開業に対し、経済産業省の補助金活用の自己負担分の補助やタウンマネージャーの支援を実施
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	経済産業省の補助制度を活用して、1～2 月にかけて駅正面通りに 3 店舗（ケーキ店、うどん店、エステネイルサロン）が開業し、それぞれのターゲット層を誘客することで、新たな人の流れが生まれている。これまでの 3 年間で、テナントミックス事業として 4 店舗が開業しており、目標値である 5 店舗の達成が見込まれる。
事業の今後について	現在リニューアルを進めている駅正面通りを中心に、空き店舗等のマッチングを進め、さらなる利活用を推進するとともに、大規模歴史建築活用事業による開業を進める。

②. 中心市街地創業支援事業（福知山市、福知山商工会議所）

事業実施期間	平成 27 年度から令和 2 年度【実施中】
事業概要	中心市街地での起業・創業対象者に、起業塾や先進事例の視察などを開催し、開業支援を行う
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	市の補助制度を活用し、駅正面通りと昭和通りに美容室が開業した。これまでの 3 年間で 9 店舗が開業し、目標値である年間 3 店舗を達成しており、新たなビジネスにチャレンジしやすい環境作りに寄与していると考えられる。
事業の今後について	令和元年度においても複数の案件が進行しており、順調に推移すると見込まれる。今後も新たな開業希望者の掘り起こしを図るとともに、事業を周知することでさらなる活用を促進する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

テナントミックス事業、創業支援に関連する事業ともに、新規開業件数は順調に進捗しているため目標達成は可能だと思われる。今後は、開業に向けたチャレンジやマーケティングの場として、新町商店街内にチャレンジショップが開業したことも、新規開業への後押しとなると期待され、多面的に支援をすることでさらに実績を伸ばしていきたい。